




白杵市立上北小学校

学力向上プランの概要

- 1 ペア活動・グループ活動による伝え合い活動の充実
 - 授業にペア活動やグループ活動を位置づけることにより、自分の考えを明確にしたり、発表に自信をもたせたりするための工夫を行う。また、話し合わせる内容や目的についても、明確にしていく。
 - 理解しづらい子どもに焦点を当てたわかる授業を展開する。
 - ・ヒントカードや振り返りカード
 - ・興味や必然性に基づく課題設定や教材教具の工夫
- 2 課題とまとめが呼応した授業と板書の推進とノートとの一体化
- 3 ICT機器を活用したわかりやすい授業の推進
 - ICT機器を活用して考えをモニターに映して発表させる。考えの異同を捉え、「学び合い」の場をつくる。
 - 発展学習として調べたことや習ったことをICT機器を使って発表する。(プレゼンテーション)

効果のある取組事例

1. 授業場面における主体的な話し合い活動を充実させる。
 - (1) ペア活動、グループ活動の授業への位置づけ
 - 対話することで主体的に学ぶ。
 - 考えをもちにくい子どもへの支援となる。
 - 自分の考えに自信をもったり、見直したりする。
 - 伝える力、聞く力が育つ。
 - 互いの考えの良さや違いに気づき、相手を認める。
 - (2) 話し合いの目的によるペア活動の違い
 - 説明ペア・・・自分の考えの説明
 - 相談ペア・・・わからないところを相談する。よりよい考えを導き出す。
 - 確かめペア・・・答えや方法の確認

(3) ペア活動・グループ活動の際の環境面の工夫

- クリップボードの活用→説明者への意識の集中
- ペアトークマニュアルの作成及び活用
- 話しを聞く態度の育成
(北ブロック学習のきまり等の活用)



2. 学習理解に支援を要する子どもへの対応を行う。

(1) ヒントカードの活用

- 課題に対しての自分の考えをもちづらい子どもへの対応。
- 思考段階を細分化して示すワークシート
- 視覚的にわかりやすくしたワークシート

(2) ふり返しカード

- 前時や以前の既習内容をふり返らせ、本時の学習に活かす。

3. チャレンジタイム・上北タイムを使った国語・算数の強化を全校で実施する。

4. 単元ごとのテストにより、児童一人一人の理解度を正確に把握し、個に応じた指導で改善に生かす。

5. 「北ブロック 授業の5つの約束」に基づき、学習規律の徹底を図り、効果的な学習を進める。

6. 個別指導・個に応じた指導を充実させる。

(チャレンジタイム・上北タイムの活用)

《共感的関係を育てるペア活動や話し合い活動について》

① **ペア活動の良さ**

- 一斉で一人ずつ話すと、話す時間より聞く時間が多くなるが、ペア（席の近くの人）で話すことにより、話す時間を多く持つことができる。（主体的に考えることができる）
- あまり緊張しないで話すことができる。
- 自分の考えが持てない時や自信がない時、相談することができる。
- 自分の考えを、相手に伝える力が育つ。
- 友だちの考えを、しっかり聞き、話を理解する力が育つ。
- 自分の考えを認められることにより自信を持つことができる。
- 話し合うことにより、お互いの考えの違いや良さを認めることができる。

② **ペアの種類について**

	ペアの種類	内 容	話 型
1	説明ペア	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えを説明する。 • 操作の方法を説明する。 	「まず…、次に…、次に…、だから…」 「この図を見て下さい。…だから」
2	相談ペア	<ul style="list-style-type: none"> • 分からないところを相談する。 • お互いに考えを出し合いながらより良い考えを見つめる。 	「どう思った？」 「ここはわかるけど、ここはわからない。」 「もっとよいほうほうが、あるかな。」 「算数『 せかい 』の考えは、どれかな？」 * せ …正確に、 か …簡単に、 い …いつでも使える
3	確かめペア	<ul style="list-style-type: none"> • 答えや考え、方法の確認。 • 違う時は、お互いの方法を説明し合う。 	「この答え（考え）でよいですか」「よいです。」 「…の考えが、わかりました。」 「私とは、…がちがっていたね。どうしてかな。」 「こんなふうにやってみたらいいよ。」 （自分になかった考えを書き加える。） 同じ考え…赤線 違う考え…青線

	ペアの種類	場面	教師の問いかけ
1	説明ペア	<ul style="list-style-type: none"> • 説明させる時 	<ul style="list-style-type: none"> • この方法をペアで説明して下さい。
2	相談ペア	<ul style="list-style-type: none"> • 先の見通しを持たせる • 自分の意見と比較させる時 • 友だちの意見を要約する時 	<ul style="list-style-type: none"> • どうなると思う？ • どうしたい？ • こういう考えがあるけどどう思う？ • ○○さんは、何が言いたかったのかな？
3	確かめペア	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の話が理解できたか確認させる時 • 友だちの意見を再現させる時 • 自分の考えがあっているか確かめる時 • やり方を確認した後で作業する時 	<ul style="list-style-type: none"> • 先生が言った3つのことをペアで伝えて下さい。 • 授業の準備ができたか、ペアで確認しましょう。 • ○○さんが言ったことをペアでもう一度言ってみましょう。 • 漢字の間違いがないか、確かめましょう。 • (問題の解き方、公式、答え方など) ペアで確認してから、始めましょう。

③ペア活動をする時の環境面の工夫


- ・クリップボードを活用し、ペア学習への意識づけをする。クリップボードやノートはお互いの真ん中に置き、相手の話を、目や耳を傾けたり、うなずいたりしながら最後まで聞くようにする。
- ・「ペアトークのしかた」マニュアルを作り、活動をしやすくする。
- ・相手の話を聞く時の態度を育てる。
*活動に入る前に、姿勢や聞く態度（相手を見る、物を置く）を確認する。

ペアトークのしかた 1. 2. 3年

右がわの人から はじめる


ノート、ホワイトボードなどを まん中に置く。
・わたし（ぼく）から、はなします。

ゆびさしなから せつめいする。
・わたし（ぼく）は、・・・だと おもいます。
・どうしてかという・・・だからです。
（くわしい せつめいのとき）
・まず・・・ つぎに・・・（つぎに・・・） だから・・・
・しつもんは、ありませんか？



しつもんする。
（わからないことは、そのままにしないで、きく。）
・どうして・・・なのですか。
・よくわからなかったので、もう一度 教えてください。

ほめしあう。
・わたし（ぼく）は・・・が、よくわかりました。
・どこが、おなじかな？
・どこが、ちがうかな？



うなずきながら きこう。
うん、うん。
なるほど。
よいです。

ペアトークマニュアルとバインダーをセットにする。

- ① マニュアルをバインダーに貼り付ける。2, 5, 6年
- ② 後ろにジブロックを貼り、その中に入れる。1年
- ③ 机の横にマニュアルを下げる。3, 4年



A4サイズ（2, 5, 6年）
B4サイズ（1, 3, 4年）

④ペア活動の注意点

- ・話す内容や目的をはっきりさせる。
〔 ペアトークが盛り上がる時は、子どもたちが「話したい」という気持ちを押しさえられず隣の子に、自分の考えを伝えようとしている時。逆に盛り上がらない時は、「何を話したらいいの?」「話す内容が分からない」というように児童が困惑をしている時。 〕
- ・じっくり話し合う場面だけでなく、サッと相談したり確認したりする場面など時間をかけない場面でもペアトークを仕組む。
- ・日頃からペアトークを多く活用し、良さを感じさせる。

*全体の話し合いの持ち方（子どもの考えの出し方、板書の位置づけ方、教師のつなげ方）については、さらに考えていく。

<めざす子ども像>

- ・自分の考えを持つことができる。
- ・自分の考えを伝えることができる。
- ・友だちの考えを共感的に理解し、互いに学び合うことができる。



（授業見直しの視点）

- ・自分の考えを持たせる場の工夫はどうだったか…自分の考えを持つことができたか。
- ・自分の考えを伝えることができていたか…ペア学習、クラス交流
- ・考えを交流することで、友だちの考えの良さに気づくことができていたか
出された意見の位置づけ、つなぎ方

*意欲的な姿…問題を一生懸命考える。
自分の考えを持つ。
相手に自分の考えを伝えることができる。
相手から自分の考えを認められる。
練習問題が解ける。